

# 【H14年度】設計課題 「工房のある工芸品店併用住宅(木造2階建)」

## 1. 設計条件

工房のある工芸品店(紙・竹・木による手工芸品)店併用住宅を計画する。計画に当たっては、次の①～③に特に留意すること。

- ① 店舗部分と住宅部分とは、出入口を明確に分離し、屋内の1階部分で行き来できるようにする。
- ② 店舗部分の売り場は、天井の高い空間とし、上部には2階部分を設けてはならない。
- ③ 売り場に隣接させて工房を設け、工芸教室としても利用できるように計画する。

### (1) 敷地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。
- イ. 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。
- ウ. 建ぺい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
- エ. 地形は平坦で、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。
- オ. 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。

### (2) 構造及び階数

木造2階建とする。

### (3) 延べ面積

必ず「190㎡以上、230㎡以下」とする。  
(ピロティ、玄関ポーチ、駐車スペース、駐輪スペース等は床面積に算入しない。)

### (4) 家族構成等

- ア. 夫婦(50歳代)
- イ. 夫婦で工芸店を営むかたわら工芸教室を主宰する。この教室を通じて地域活動にも積極的に参加し、来客も多い。また工芸品に関する出版物の執筆等にも従事している。

### (5) 所要室

下表のすべての室は、必ず指定された設置階に計画する。

室名	設置階	特記事項
店舗部分	売場	1階 ア、19㎡以上とする。 イ、天井の高い空間とし(天井高は、平均で3,000mm以上とする)、上部には2階部分を設けてはならない。 ウ、床は土間コンクリートとする。 エ、工芸品を陳列する棚を設ける。 オ、レジカウンターを設ける。
	工房	1階 ア、工芸品の製作に使用するとともに、工芸教室としても使用する。 イ、19㎡以上とする。 ウ、流し台(1,500mm×600mm)を設ける。 エ、テーブル(2,700mm×1,200mm)を配置する。
	準備室	1階 ア、工房の準備室とし、更衣や休憩等にも利用する。 イ、16㎡以上とする。 ウ、工芸品の材料や工具等を保管する棚(1,800mm×600mm)を設ける。 エ、ミニキッチン(1,200mm×600mm)を設ける。
	便所	1階 ・広さは、心々1,365mm×1,365mm以上とする。
	洗面所	1階 ・3㎡以上とする。
住宅部分	玄関	1階
	和室	1階 ア、10畳以上とし、床の間及び押入を設ける。 イ、客間としても利用する。
	納戸	1階 ・6㎡以上とする。
	居間	2階 ・洋室16㎡以上とする。
	食事室・台所	2階 ア、洋室13㎡以上とする。 イ、1室にまとめる。
	寝室	2階 ・洋室13㎡以上とし、その他に収納を設ける。
	書斎(夫用)	2階 ア、いずれも洋室7㎡以上とする。
	書斎(妻用)	2階 イ、いずれも寝室から直接行き来できるようにする。
	浴室	2階 ・3㎡以上とする。
	洗面脱衣室	2階 ・3㎡以上とする。
便所	2階 ・広さは、心々1,365mm×1,365mm以上とする。	

### (6) 駐車スペース及び駐輪スペース

敷地内に、小型乗用車(5人乗り)3台分の屋外駐車スペース及び5台分の屋外駐輪スペースを設ける。

## 2. 要求図書

- a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する。ただし、寸法線は、枠外にはみ出して記入してもよい。
- b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規をもちいなくてもよい)
- c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(矩計図にあつては10mm)である。

要求図書 ( )内は縮尺	特記事項
(1)1階平面図兼配置図(1/100) (2)2階平面図(1/100)	ア、敷地境界線と建築物との距離、建築物の主要な寸法を記入する イ、1階平面図兼配置図に、塀、植栽、駐車スペース、駐輪スペース等を記入する。 ウ、室名を記入する。 エ、店舗部分には次のものを記入する。 ・売り場に、棚、レジカウンター ・工房に、流し台、テーブル ・準備室に、棚、ミニキッチン ・便所に、便器 ・洗面所に、洗面器 オ、住宅部分には台所設備機器(流し台・調理台・ガス台・冷蔵庫等)浴槽、洗面器、便器、洗濯機を記入する。 カ、「通し柱」を○で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう。 キ、2階平面図に、1階の屋根伏図も記入する。 ク、矩計図の切断位置を記入する。
立面図(1/100)	・北側立面図とする。
矩計図(1/20)	ア、切断位置は、売り場部分とし、開口部を含む部分とする。 イ、作図の範囲は、柱心から1,000mm以上とする。 ウ、主要部の寸法等(床高、天井高、軒高、軒の出、ひさしの出、開口部の内法、屋根の勾配)を記入する。 エ、主要部材(基礎、土台、柱、けた、小屋ばり、もや、たる木)の名称・断面寸法を記入する。 なお、床は、土間コンクリートとし、コンクリートの厚さ等を記入する。 オ、アンカーボルト、羽子板ボルト等の名称・寸法を記入する。 カ、外気に接する次の部分の断熱・防湿措置を記入する。 ・屋根(小屋裏が外気に通じている場合は、屋根の直下の天井) ・外壁 ・その他必要と思われる部分 キ、室内及び内外の主要な部位(屋根、外壁、床、内壁、天井)の仕上材料名を記入する。
面積表	ア、建築面積、床面積及び延べ面積を、答案用紙の面積表に記入する。 イ、建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ、数値は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。

## 3. その他

次の試験については、上記のほか、下記による。

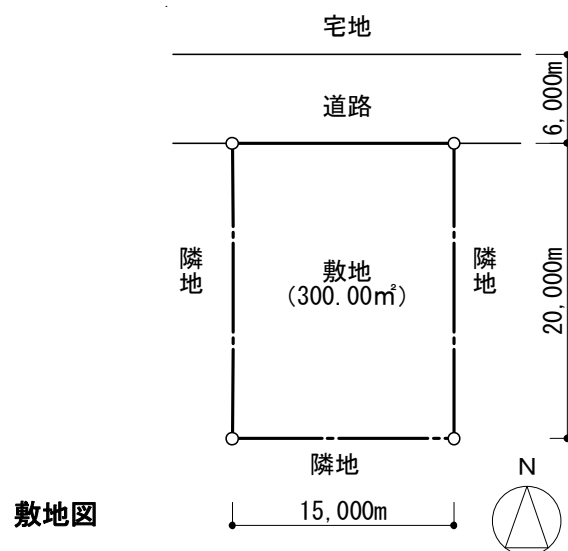
### 北海道の試験

#### (1) 設計条件

北海道の気象条件に合うような防寒構造とする。

#### (2) 要求図書の特記事項

矩計図に、①想定した凍結深度、②基礎の凍上防止措置を記入する。



敷地図